

# 日本語とタイ語の自称詞の対照研究

## —認知言語学の観点から見た出現数と種類の差異—

Roykaew SIRIACHA

### 要 旨

これまでの日本語とタイ語の自称詞に関する研究は、自称詞の出現数あるいは種類のいずれかだけを考察したものが多い。しかし、日本語とタイ語における自称詞の全体像を説明するためには、出現数と種類の両方の考察が必要であると考えられる。そこで、本研究では日本語とタイ語の自称詞の出現数と種類を総合的に考察することを試みた。その結果、日本語よりタイ語の方が自称詞の出現数が多いことが明らかになった。また、種類に関して、日本語では典型的な役割語が多いのに対し、タイ語ではその数が少ないことが分かった。本論文は、これらの現象の背後には認知言語学における〈事態把握〉の違いがあることで説明できると主張する。

【キーワード：自称詞／日タイ語／ゼロ代名詞／役割語／事態把握】

### 1. はじめに

自称詞とは話し手が自分自身に言及するために用いる全ての表現のことである（鈴木1973：146）。自称詞の性質と用法は言語によって異なるが、日本語とタイ語の場合では、一人称代名詞以外にも親族名称・職業名称・固有名詞・指示詞が用いられる点で共通している。また、タイ語は日本語と同じくゼロ代名詞言語<sup>1</sup>であり、文脈から分かれば、自称詞を非明示にすることができる（Uehara 2012、Ratitamkul and Uehara 2012）。

日本語やタイ語の自称詞を英語など人称代名詞に限られ、社会的な要因で変化しない言語に訳すことはあまり困難ではないと思われる。しかし、同じく自称詞の選択肢が豊かでありながら、社会の文化的構造や歴史的形成過程が異なる日本語とタイ語の間においては、微妙なニュアンスに関する体系的な知識が必要となる。また、金水（2000：33）は、「役割語」が人間の範疇化の一指標であるとするならば、どのような社会にも役割語は存在するはずであるとしている。そこで、タイ語の自称詞において、どのような役割語が見られるかという点も興味深い点である。

そこで、本研究は、日本語原作の漫画とそのタイ語版を資料とし、役割語の視点を中心に日本語の自称詞がどのように訳されているのかを調べる。両言語の自称詞の共通点と相違点を明確にし、認知言語学の観点からそれぞれの言語の自称詞の使用がどのような原理に基づくものであるかを明らかにすることを目的とする。

## 2. 先行研究

### 2.1 日本語とタイ語の自称詞の出現数に関するもの

日本語と英語の自称詞の使用頻度・出現数に関する研究は多く、様々であるが、日本語とタイ語の比較に関してはまだ限られている。その少ない中、Runggeratigul (2012) と Ratitamkul and Uehara (2012) (以下 R & U と呼ぶ) が挙げられる。Runggeratigul (2012) は社会的な観点から、話し手の性別、聞き手の性別、聞き手の年齢、親疎関係、内-外関係という要因に基づき、日本語原作の漫画とそのタイ語版における自称詞と対称詞<sup>2</sup>の使用頻度を考察し、タイ語版の自称詞と対称詞の使用頻度は日本語版より高いという結果を報告している。特に、親しく年齢が同等の聞き手との発話では、タイ語版の自称詞と対称詞の使用頻度は日本語原作より圧倒的に高いと指摘している。Runggeratigul (2012) は社会的な要因に注目した研究ではあるが、自称詞の使用頻度に影響を与えるのは社会的な要因のみならず、文法形式も大事な要因の一つであるはずである。文法的な要因も含めた研究には R & U (2012) の英語原作の短編小説における英語、日本語、タイ語の人称詞の対照研究がある。R & U (2012) は英語原文からそれぞれの言語への対訳コーパスを用いて分析し、タイ語版は日本語版より自称詞の使用頻度が高いことを明らかにし、その要因の一つとして、日本語では、「内的状態述語」による人称制限があり、自称詞が非明示のままでその経験主体が話者であると分かることを挙げている。同じ状況において、タイ語は基本的に、日本語のような経験主体を規定する文法形式がないため、自称詞を明示することが多い (R & U 2012: 153)。しかし、後述するように、日本語原作とタイ語翻訳版を資料とした場合、内的状態述語以外の要因も見受けられたため、その現象を明らかにする必要があるであろう。

### 2.2 日本語とタイ語の自称詞の種類に関するもの

金水 (2003: 205) は「役割語」について以下の通り規定している。

ある特定の言葉遣い (語彙・語法・言い回し・イントネーションなど) を聞くと特定の人物像 (年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格など) を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかに使用しそうな言葉遣いを思い浮かべることができるとき、その言葉遣いを「役割語」と呼ぶ。

金水 (2003: 205-206) によれば、日本語の役割語にとって重要な指標は人称代名詞やそれに代わる表現及び文末表現であり、人称代名詞とは「わたし」「あなた」「彼・彼女」のように話し手・聞き手・第三者をそれぞれ専門に表す語彙であるが、特に話し手自身を表す一人称代名詞が重要である。一人称代名詞に「わたし、わたくし、あたし、あたい、わて、わし、わい、あちき、あつし、おれ、おれさま、おら、おいら、ぼく、ぼくちゃん、うち、われ、拙者、それがし、まろ、朕」などがあり、それぞれにかなり明確な人物属性と結びついている (金水2007: 1)。

また、伊藤 (2015) によれば、タイ語の場合も役割語の機能が最も顕著に観察されるのは自称詞

である。伊藤（2015：22）はさらにタイ語の自称詞について、男性の自称詞である「phǒm」、女性の自称詞である「di-chǎn」、仏僧の自称詞である「ʔàat-ta-maa」は、それぞれ〈男〉<sup>3</sup>、〈女〉、〈仏僧〉を想起させる役割語であると言える」と述べており、タイ語の自称詞は、役割語の研究対象として相応しいと指摘した。しかし、伊藤（2015）のデータでは「phǒm」から最近派生したと考えられる「pǒm」に限定されているため、タイ語の自称詞における役割語の全体像について十分な説明がなされているとは言えない。他にタイ語における役割語について言及したのは Chusri（2013）がある。Chusri（2013：82）は『ロード・オブ・ザ・リング』という映画のタイ語と日本語の吹き替えを比較し、日本語では男性は「わたくし」、「俺」、「僕」、女性は「わたし」、「わらわ」など様々な自称詞に翻訳されている一方、タイ語では全て「khâa」（わたし（古代））に翻訳されていることを指摘した。その結果、タイ語の特徴は話し手の「時代」を表すが、日本語の場合は「性格」を表す特徴を有するとした。しかし、Chusri（2013）は詳細なデータを扱っておらず、上記の現象の背後にある理由も検討されていない。さらに、筆者が調べたところ、時代劇漫画を資料とした場合「khâa」以外の自称詞も見受けられたため、その現象をより詳細に明らかにする必要があるであろう。

### 3. 研究対象及び研究方法

本稿ではタイでも長年に渡って広く読まれている漫画の上位10位まで入るもの<sup>4</sup>から『ドラえもん』、『ドラゴンボール』、『クレヨンしんちゃん』、『名探偵コナン』、『ワンピース』の日本語原作とそのタイ語版を分析対象とする。また、上位には入っていないが、Chusri（2013）がタイ語の自称詞における役割語の特徴であると指摘している「時代」を考察するため、『あさきゆめみし』と『るろうに剣心』も取り扱う。

研究方法としては、上記の日本語原作の漫画及びそのタイ語版をデータベース化して、両言語の構文比較を容易にするため、対訳コーパスを作成する。本研究の一つの目的である日本語とタイ語の自称詞における役割語の対応関係を観察するため、各漫画の最も多様な人間関係が見られる章を選び、その章で会話に現れる最初の50の自称詞の事例を収集し、合計350事例を分析対象とする。1つの章で50事例に満たない場合は別の同様の章から50事例になるまで収集する。データを収集した章は資料のところに記載した。なお、収集する際は以下の分類項目を設定する。

- ① 置き換え：原作では自称詞が使用され、タイ語版も自称詞が使用されている場合
- ② 追加：原作では自称詞が使用されていないが、タイ語版では使用されている場合
- ③ 省略：原作では自称詞が使用されているが、タイ語版では使用されていない場合

### 4. 結果と考察

#### 4.1 出現数

##### 4.1.1 データから見られた自称詞の出現数

本稿では、日本漫画の原作とそのタイ語版を資料とし、自称詞を比較する。原作とタイ語版から取り出した自称詞350事例を明示・非明示に分類した結果を下記の表1に示す。

表1 日本語とタイ語における自称詞の出現数

作品	ドラえもん		名探偵 コナン		クレヨン しんちゃん		ドラゴン ボール		ワンピース		るろうに 剣心		あさき ゆめみし	
出現数	日	タイ	日	タイ	日	タイ	日	タイ	日	タイ	日	タイ	日	タイ
明示	21	50	28	49	27	48	29	48	30	50	30	44	36	49
非明示	29	0	22	1	23	2	21	2	20	0	20	6	14	1

表1を見ると、どの作品においても、タイ語の方が日本語より自称詞の明示数が多いことが明らかである。この結果はR & U (2012)、Runggeratigul (2012) と一致している。上記の表1を日本語とタイ語の明示数と非明示数の割合で表すと、図1の通りになる。

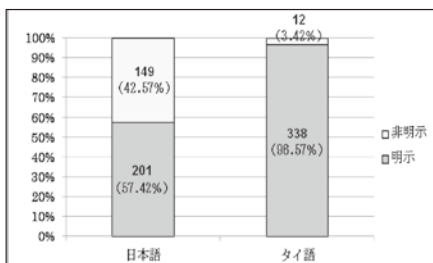


図1 日タイ語における自称詞の明示と非明示の割合

図1で分かるように、自称詞の明示数はタイ語の方が明らかに多い。今回のデータでは、日本語では自称詞が明示されていないが、タイ語版では明示されている場合である「追加」ケースは149例であり、「省略」ケースを大きく上回っている。

このことから本稿では、「追加」ケースを取り上げて紹介する。なお、149例のうち、元々タイ語に対応するものがない6用例の意識を対象外とする。日本語とタイ

語の自称詞の出現数の差の要因に関しては次の節で論じることにする。

#### 4.1.2 日本語とタイ語の自称詞の出現数の差の要因

自称詞が日本語では明示されていないのに、タイ語版では明示されていること背景には、様々な要因が絡み合っており、それぞれの言語に自称詞が非明示可能な場合と不可能な場合が存在する。本稿では、収集したデータ143例を分析した結果、主要な要因である両言語の文法・構文によるものを取り上げて、紹介する。

##### 両言語の文法・構文によるもの

日本語には主語が「自称詞」か「非自称詞」かの違いを明確にもつ述語が多く、これらの述語は、「意思や希望」また「感情や感覚」を表す述語に多いと成山(2009: 47)が指摘している。よって、内的状態述語には人称制限があり、自称詞主語は省略されても分かる。一方、タイ語では基本的に日本語のような経験主体の人称を規定する文法形式がないため、自称詞を明示することが必要となる(Uehara 2012: 131)。

本稿では、日本語において誰のことについて言っているのかを規定する特徴を持っている文法形式として ①内的状態述語 ②授受表現 ③敬語(謙譲語) ④受動表現 を指摘したい。これらの表現が使用された場合、日本語では自称詞がなくても話し手が分かるのに対して、タイ語ではそのような文法形式がないため、基本的に自称詞を明示することが必要となる。具体例は以下に示す。

## ① 内的状態述語

日本語の文法は話し手が自分自身の内的状態を説明するときと他人の内的状態を説明するときでは明白な区別があるとされている (Iwasaki 1993, Uehara 2012)。よって、内的状態述語には人称制限があり、自称詞は省略されても分かる。一方、タイ語の述部においては、「～can」(本当に～)という言葉を除けば、日本語のような人称制限がない (Uehara 2012 : 131)。

感覚

出典：『クレヨンしんちゃん』- 幼稚園の子供の台詞

(1J) えーん こわいよー (p.111)

(1T) ɲɛɛ kháw klua (p.108)

泣き声 自称詞 こわい

思考

出典：『ドラえもん』- のび太の父親の台詞

(2J) 思い出すなあ、子供のころを (p.184)

(2T) ..phôw nŭk thŭŋ tɔɔn phôw dèk- dèk (p.184)

自称詞 思い出す ころ 自称詞 子供

## ② 授受表現

タイ語の「hây」は日本語文での「くれる」と「あげる」のような区別がない。そのため、ほぼ自称詞が明示されることになる。

出典：『ワンピース』- ルフィの台詞

(3J) ...連れてってくれよ 次の航海!! (p.10)

(3T) ...?àək thá-lee khraaw-nâa phaa chǎn pay dûay ná? (p.10)

航海 次 連れる 自称詞 行く も よ

## ③ 敬語 (謙譲語)

日本語では、謙譲語があるため、自称詞を入れなくても、話し手の動作だと分かるのに対して、タイ語では、王族やお坊さんに対する特殊な言葉遣いを除けば、日常会話では、日本語の謙譲語のようなものがないため、自称詞を明示することが多い。

出典：『名探偵コナン』- 執事の台詞

(4J) ... 食事の用意をしておりますて、ずっと食堂に… (p.26)

(4T) ..phôm triam ?aa-hǎan yùu nay hōŋ-?aa-hǎan kháp (p.24)

自称詞 食事を用意している 中 食堂 丁寧接尾辞

## ④ 受動表現

タイ語では受動文があるが、日本語のような文の中の意味関係を表す「助詞」がなく、語順で意味が変わるため、動作主と動作を受ける人を明示するのが一般的である。

( 5 T) *chấn*      tùuk      dèk-dèk      hǎa wâa      pen      phôo-khâa-nâa-luât (p.107)

自称詞    ～られる    園児    言う    コブラ    地上げ屋  
↓                          ↓  
動作を受ける人      動作主

原作の日本語では、自称詞が非明示であるのにも関わらず、タイ語版では追加されることの背景にはいくつかの要因があり、前節では、主な要因として、文法・構文による要因を紹介した。本節はこの現象をさらに見ていくと、認知言語学における Subjectivity (Langacker 1985 他) や主観性 (池上2004) で説明できると論じる。

また、池上（2004：52）によると、事態把握は主観的把握と客観的把握に分けられており、主観的把握とは話者は問題の事態の中に自らの身を置き、その事態の当事者として体験的に事態把握をするということであり、客観的把握とは話者は問題の事態の外にあって、傍観者ないし観察者として客観的に事態把握をするということである。池上（2004：54）は、具体例として、道に迷った時、「ココハドコデスカ」と自己をゼロ化した言い方をするのは〈主観的把握〉をする言語の話者、「私ハドコニイマスカ」と自己を明示化して聞くのは〈客観的把握〉をする言語の話者であると説明している。このように、話者非明示は〈主観的把握〉であり、話者明示は〈客観的把握〉であるとされている。

上原（2016：73-74）は、意味上の話者の有無がその表現上の話者の明示・非明示と対応すると述べており、客観的には同じ位置関係の事態の異なる捉えを表す Langacker の 2 表現を使用し、図 2 のように表している。すなわち、a) では、概念化者としての話者によっての見えに話者自身が存在するため、それが明示の表現という形に表れ、b) では、その意味の中に話者が存在しないため表現としてもゼロ／非明示の表現になっているのである。

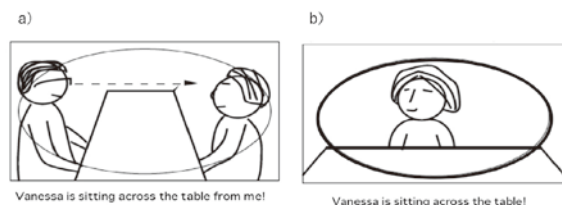


図2 それぞれの表現の表す見え (Uehara 2006: 277 より)



上記の図2の例は一つの言語内での二つの表現の立ち位置の違いの例であるが、日本語とタイ語の自称詞の明示・非明示の現象をはじめ、言語が違う場合でも、同じ原理で説明できると思われる。言い換えれば、上記で述べたように、自称詞の明示・非明示は、それぞれ認知言語学における〈客観的把握〉と〈主観的把握〉に関わっている。日本語とタイ語における出現数の差異の背景においてもこの事態把握の違いで説明できるということである。前節に漫画のデータで示した通り、客観的に同じ状況において、日本語は自称詞を非明示にすることが多いが、タイ語訳では自称詞を追加する傾向が強い。よって、日本語は〈主観的把握〉を好み、タイ語は〈客観的把握〉を好む傾向があると言えるであろう。従って、傾向としては日本語では見えの中に話者が存在しないのに対し、タイ語では話者にとっても見えの中に話者自身が存在することが多い。つまり、日本語は Uehara (2006) の図2のb) に対応しており、タイ語はa) に対応している。これをさらに、分かりやすくするため、上記の例文(1)を使用し、図で表すと図3の通りになる。

場面：園児がヤクザのような顔をしている園長を見て、泣いて言った台詞（『クレヨンしんちゃん』より）

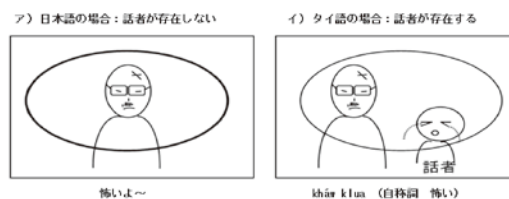


図3 日本語とタイ語における話者明示・非明示に関する見え（捉え）の例

図3のA)で示している通り、日本語では意味上において話者が存在しないため、表現上においても自称詞が非明示にされている。これに対して、B)のタイ語では同じ状況において話者が意味上において存在しているため、表現上においても、自称詞が明示されているわけである。

## 4.2 種類

上記のように、日本語とタイ語の自称詞は様々であるが、役割語の機能が最も顕著に観察されるのは一人称代名詞である。よって、本稿では一人称代名詞を取り上げて論じる。

### 4.2.1 データから見られた自称詞の種類

まず、日本語原作とタイ語版の一人称代名詞を取り上げると、表2と表3のようにまとめられる。なお、表2と表3で示している日本語の一人称代名詞の解説は金水（編）（2014）の『〈役割語〉小辞典』、タイ語の解説は辞書 Ratchabandittayasatan (2011) とタイ語の人称代名詞を網羅的に扱った論文 Cooke (1986) に基づいて、本研究のデータに関係のあるものを取り出してまとめたものである。

表2 データに見られた日本語の一人称代名詞

種類	一人称代名詞	出現数	解説
①	わたし	48	「わたし」のくだけた表現。
②	おれ	39	野性的な男性が用いる。
③	おら	21	田舎者、嘲笑の対象が用いる。
④	ぼく	19	知的あるいは、幼穉的、弱々しい男性が用いる。
⑤	わたくし	14	「わたし」よりさらに改まった表現。女性であれば、奥様・お嬢様ことばとして、他に女王様、お姫様、女召使い等が用いる。
⑥	せっしや	10	武士、忍者が用いる。
⑦	わし	9	博士、老人の男性が用いる。
⑧	あたしや	2	「あたしは」のなまりで、おばあさんが用いる。
⑨	おれさま	1	自敬表現で、傲慢不遜で野卑な男性が用いる。
⑩	われ	1	古語の一人称。

表3 データに見られたタイ語の一人称代名詞

種類	一人称代名詞	出現数	解説
①	chăn	134	男女とも用いられる。男性が目下の人か配偶者に用いる。女性、子供(男女とも)が親しい人、目下の人に用いる。
②	khâa	65	文学に用いられる場合、古代のイメージを表している。
③	phôm	24	男性の一般的な一人称代名詞。聞き手は目上の場合が多い。
④	khâa nôy	16	目上に対して用いる「khâa」よりへりくだった表現。
⑤	raw	16	I 複数形の場合: 私達という意味。II 単数形の場合: a. 王様が公の場に用いる。b. 上司が部下に用いる。c. 友達に対して、男女とも用いられる。d. 独り言の場面に用いる。
⑥	mômchân	6	女性が王様や王族に用いる。
⑦	nũu	5	女性が目上に対して用いる場合が多い。
⑧	khâw	1	女性、子供が友達や親しい人に用いる。

#### 4.2.2 日本語とタイ語の自称詞の種類の差の要因

表2が示すように、日本語では様々な一人称代名詞が使用されており、それぞれの一人称代名詞がかなり明確な人物像と結びついている。例えば、『ドラえもん』ののび太が用いる「ぼく」は〈弱々しい男〉、『名探偵コナン』の阿笠博士が用いる「わし」は〈博士〉、〈男性の老人〉、『ドラゴンボール』の孫悟空が用いる「おら」は〈純粋な田舎者〉、『ワンピース』のルフィが用いる「おれ」は〈野性的な男〉、『るろうに剣心』の緋村剣心が用いる「拙者」は〈武士〉を想起させるであろう。一方、表3から分かるようにタイ語では、「phôm」が〈男性〉、「nũu」が〈女性〉、「chăn」が〈現代〉、「khâa」が〈古代〉というように、性別と時代を区別する一人称代名詞があるが、特定の人物像を思い浮かばせる一人称代名詞が少なくタイ語での「役割語度」<sup>5)</sup>は低いことが分かる。また、一人称代名詞の出現数を見ると、日本語の場合では各一人称代名詞の間のばらつきはそれほど大きくないが、タイ語の場合では「chăn」と「khâa」の出現数が圧倒的に多い。作品ごとに見ていくと、現代を舞台とした作品において、最も出現数が多い一人称代名詞は「chăn」であり、昔を舞台とした作品において、最も出現数が多い一人称代名詞は「khâa」である。以下では現代を舞台とした作品と古代を舞台とした作品に分け記述する。

##### ① 現代を舞台とした作品

現代を舞台とした作品の友人や同輩に話す場面において、日本語は「ぼく」「おれ」「わたし」などの一人称代名詞が用いられ、それぞれに人物属性と結びついている。これに対してタイ語版では



ほぼ「chǎn」に対応している。表3にあるように「chǎn」は親しい人同士男女とも用いられる言葉である。しかし、聞き手が両親など目上の人に話す場面になると、日本語の場合は友人に話す自称詞をそのまま、両親や目上に向かって使用されるのに対して、タイ語の「chǎn」は一般的に目上に使用しないため、「chǎn」からより丁寧な一人称代名詞に移行する。すなわち、目上に話す場合は男性は「chǎn」から「phǒm」、女性は「chǎn」から「nǔu」に移行するのが一般的である。具体例は以下の通りである。

出典：『名探偵コナン』

- ・蘭（女性）が同輩である夏江（女性）と話している場面

(J 6) わたしの父は探偵だって… (p.10)

(T 6) phǒw      chǎn      pen      náksùutw̃p… (p.16)  
 父親      自称詞      コブラ      探偵

- ・蘭（女性）が父親と話している場面

(J 7) わたしだって、好きな人ぐらいいるわよ。(p.17)

(T 7) nǔu      mii      khon      thǐi      nǔu      chǎp      yùu      læw (p.15)  
 自称詞      いる      人      関係代名詞      自称詞      好く      ている      もう

ただし、登場人物によって、聞き手は年上、目上の人でも、「chǎn」が用いられることもある。具体的な例を挙げると『ワンピース』のルフィである。ルフィは自分より年上の人と話しても、より丁寧な一人称代名詞の「phǒm」に移行せず、そのまま「chǎn」に訳されている。この件に関しては、ルフィの性格とルフィの話し相手で説明できると思われる。つまり、ルフィは子供(第1話はルフィがまだ子供の時の話)であるが、上下関係や他人に対しての礼儀をろくに知らず、ルフィの聞き手である海賊達や村の人達もルフィにとって目上ではなく、友達であると捉えているため、「chǎn」が使用されていると考えられる。

このように登場人物の性格によって、目上の人に話すときでも、より丁寧な自称詞に移行しないこともあるが、全体的に見ると、タイ語では目上の人に話すとき、丁寧な自称詞に変える傾向が強いことがデータから見られた。

## ② 古代を舞台とした作品

古代を舞台とした作品において、日本語の一人称代名詞は様々であるが、タイ語ではほぼ「khâa」に対応している。Chusri (2013) のデータでは日本語の一人称代名詞は全て「khâa」と対応しているのに対し、本稿のデータでは「khâa」以外の一人称代名詞もある。具体的にいうと、『るろうに剣心』では主人公の緋村剣心が用いる「拙者」は「khâa nǒy」である。「khâa nǒy」の「nǒy」は小さいという意味で、「khâa」よりへりくだった表現である。そのため、「khâa nǒy」は〈古代の人で、謙虚な人〉を想起させることができるので役割語であると言える。また、『あさきゆめみし』では女御同士の会話では「khâa」を使用しているが、天皇と話するとき、女御達は「khâa」ではなく、

- 桐壺の更衣が女房と話している場面

自称詞      未来      行く      取る      自分で

主上            ただひとり        の            自称詞

上で述べたように、日本語の一人称代名詞は様々な人物像を想起させる典型的な役割語が多い。これに対し、タイ語の一人称代名詞は話し手自身の人物像より、聞き手が誰かによって使い分けられている。そのため、タイ語では日本語より「役割語度」が低く、典型的な役割語が少ない。このことから、一人称代名詞を選択する際、タイ語では日本語より話し手と聞き手の社会的な関係が意識されていると言えるであろう。

日本語では話し手のイメージを表す典型的な役割語が多いが、タイ語では聞き手による使い分けが重視されているため典型的な役割語が少ないということはコミュニケーションのスタイルの違いの一つであると言える。上原（2016：84-85）はこの点について、日本語とタイ語の「痛み」を表す語彙を取り上げて次のように説明している。

日本語：痛（い）！                      タイ語：\* cèp

日本語の「痛(い)」は、他者への伝達を目的とした描写モード(A)でも、独り言を含む詠嘆モード(B)でも使うことが可能であるが、タイ語の *cèp* (痛い) は、描写モード(A)でのみ使用が可能で、詠嘆モード(B)での使用は不自然である(上原2016: 84)。このように、日本語は〈モノログ、独話的〉(池上2000)<sup>6</sup>であるのに対して、タイ語はその形式が聞き手を想定した表現になっており、〈ダイアログ、対話的〉であると上原(2016)が指摘している。

この原理は日本語とタイ語の自称詞の使用法にも適用することができる。つまり、日本語は〈独話的〉であり、自称詞を使用する際に、自分(登場人物)がどのような人なのか、どのような人だと思われたいかを考えて自称詞を選択する。例えば、『ドラえもん』の登場人物において、弱虫の男の子であるのび太は「ぼく」、野性的な男の子であるジャイアンは「おれ」を使用することなど登場人物の特徴は自称詞で表現できる。一方、タイ語は〈対話的〉であるため、常に聞き手は誰なのかを意識しながら、自称詞を選択する。そのため、タイ語版ではのび太とジャイアンは友達に話すときは二人とも「*chǎn*」を使用するが、両親など目上に話すときはより丁寧な「*phǒm*」を使用するわけである(他の具体例は前節の例文6-9を参照されたい)。また、このコミュニケーションのスタイルの違いは事態把握の違いに関わっている。つまり、〈主観的把握〉は〈独話的〉なコミュニケーションスタイルに対応しやすいのに対し、〈客観的把握〉は〈対話的〉なコミュニケーションスタイルに対応しやすいのである。

## 5. おわりに

本稿の結果は以下のようにまとめられる。

1) 日本語とタイ語は両方ともゼロ代名詞言語で、基本的には自称詞を非明示にできるが、日本語の方が圧倒的に非明示の数が多い。この現象の背景にはいくつかの要因が認められるが、本稿では、主に、両言語の文法・構文的な特徴の要因を取り上げて考察した。その結果、日本語では、内的状態述語をはじめ、主体／主語が話者に限定されている文法形式があるため、自称詞が明示されなくても、話者であることが明確である。

一方、タイ語では基本的には日本語のような話者を規定する文法形式がないため、分かりやすくするため、自称詞を明示する傾向が高いと考えられる。その上、この文法・構文的な特徴の要因の裏には、日本語とタイ語の事態把握の違いがあると説明できる。つまり、日本語は〈主観的把握〉をする傾向が強い言語であるのに対し、タイ語は〈客観的把握〉をする傾向が強い言語であると特徴づけられると分かった。また、この結果はR & U(2012)とも一致する。

2) 日本語とタイ語の両言語とも、一人称代名詞が豊富である。また、代名詞以外にも、親族名称、職業名称、固有名詞、指示詞を自称詞として用いられる点でも共通している。漫画を題材として、役割語の観点から見て行くと、日本語では一人称代名詞はかなり明確な人物像と結びついており、典型的な役割語が多い。これに対し、タイ語では人物像の性格やイメージを表すより、その登場人物の聞き手が重視されているため、日本語より典型的な役割語が少ないと考えられることを指摘した。

この現象に関しても、認知言語学の概念で説明できる。つまり、日本語は〈独話的〉であり、自称詞を使用する際、自分（登場人物）がどのような人なのかを考えながら、自称詞を選択する。一方、タイ語は〈対話的〉であり、多くの場合は自分のイメージよりも、聞き手は誰なのかを考えながら、自称詞を選択するのである。その上、独話的な表現は主観的把握に、対話的な表現は客観的把握に繋がっていると言える。

自称詞の出現数と種類は、一見無関係なことに見えるが、認知言語学上の概念を用いることで、その相関関係が明らかになる。すなわち、大まかにではあるが、日タイ語の自称詞の出現数及び種類の違いは、その背景にある両言語における事態把握の違いに集約されると言えよう。

本稿の意義は以上で述べたように、認知言語学の〈事態把握〉理論を使用することによって、日本語とタイ語両言語の間の差を特徴づけることができると分かった点である。また、これまでの自称詞に関する日英の対照研究は数多くあるが、英語の自称詞の性質は日本語と異なるため、対照するのに無理のある部分もある。しかし、同じくゼロ代名詞言語である日本語とタイ語の対照研究によって、今後の言語類型論の研究の展開に繋がる有意義な議論を行うことができた。

今後の課題としてはデータを増やし、本稿で扱えなかった職業名称系自称詞、指示詞系自称詞、固有名詞系自称詞を考察することである。また、自称詞の出現数の差異の要因について両言語の文法・構文によるもの以外の要因について記述することが必要であるが、別稿に譲る。

\* 本稿の自称詞の出現数と種類に関する内容は、それぞれ言語処理学会第22回年次大会（2016年3月10日於東北大学）、社会言語科学会第38回大会（2016年9月4日於京都外国語大学）において発表した原稿に加筆訂正を加えたものである。両大会でコメントをくださった方々に感謝する。

## 注

- 1 ゼロ代名詞言語について、Uehara (1998: 275) は以下のように述べている。  
日本語における「無形／ゼロ／省略された代名詞」とは、文の非明示の項でその典型的な文法的機能（性や数や人数）が形態的に文のどこにも標示されないものである。そして、これはたとえばイタリア語やスペイン語における、定型節の主語が表現されずともその文法的機能は動詞の屈折で体系的に標示されるような、いわゆる「pro-drop」とは区別すべきものである。前者のタイプは中国語、韓国語、タイ語などの他言語にも見られる。
- 2 対称詞とは話しの相手に言及することばの総称である（鈴木1973: 146）。
- 3 役割語によって表されているものを〈 〉に括って示すことにする。
- 4 本研究に用いるタイでも広く読まれている日本漫画の順位付けは <http://www.toptenthailand.com> による。
- 5 金水（2003: 67-69）は「役割語度」を「ある話体（文体）が、特徴的な性質の話し手を想定させる度合い」というような尺度である」と定義し、話し手の性別のみを想起させる話体は役割語度が低いのにに対し、強烈な個性の人物像を想起させるような話体は役割語度が相当高いとしている。
- 6 池上（2000: 253）は詩を例として取り上げ、英語においては聞き手がいることを想定している〈ダイアローグ、対話〉が多いのにに対し、日本語においては〈モノローグ、独白〉がかなり許容されていると述べている。

## 参考文献

- 池上嘉彦 (2000) 『『日本語論』への招待』 講談社
- 池上嘉彦 (2004) 「言語における〈主観性〉と〈主観性〉の言語的指標 (2)」 山梨正明他編『認知言語学論考』 4 ひつじ書房, 1-60
- 伊藤雄馬 (2015) 「役割語としての新しい人称代名詞 pǒm—タイ語役割語研究事始め—」『タイ研究』 15, 21-35
- 上原聡 (2016) 『ラネカーの〈間〉主観性とその展開』 (中村芳久・上原聡編著) 開拓社
- 金水敏 (2000) 「役割語探求の提案」 佐藤喜代治編『国語史の新視点 国語論究』 8 明治書院, 311-351
- 金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語役割語の謎』 岩波書店
- 金水敏 (2007) 「『役割語』研究と社会言語学の接点」『社会言語科学会 第19回大会発表論文集』 359-361, <[http://skinsui.cocolog-nifty.com/sklab/files/JASS19kinsui\\_paper.pdf](http://skinsui.cocolog-nifty.com/sklab/files/JASS19kinsui_paper.pdf)> (参照2013-07-20)
- 金水敏 (編) (2014) 『『役割語』小事典』 研究社
- 鈴木孝夫 (1973) 『ことばと文化』 岩波書店
- 成山重子 (2009) 『日本語の省略がわかる本 誰が? 誰に? 何を? How can we know who did what to whom in Japanese? The Grammar of Omission: Less is More』 明治書院
- Chusri, A. (2013) *Language in Japanese Society*, Faculty of Arts (2223282) Lecture Materials, Faculty of Arts Chulalongkorn University.
- Cooke, J.R. (1965) *Pronominal Reference in Thai, Burmese, and Vietnamese*, University of California Press.
- Iwasaki, S. (1993) *Subjectivity in Grammar and Discourse: Theoretical Consideration and Case Study of Japanese Spoken Discourse*, Amsterdam/Philadelphia, John Benjamins.
- Langacker, Ronald W. (1985) "Observations and speculations on subjectivity" In John Haiman (ed.), *Iconicity in Syntax*, John Benjamins, 109-150.
- Ratchabandittayasatan. (2011) *Photchananukrom Chabap Ratchabandittayasatan* (Thai-Thai Dictionary), Office of the Royal Society.
- Ratitamkul, T. and S. Uehara (2012) "A contrastive case study of pronominal forms in English, Japanese and Thai: A parallel corpus approach" in Miyamoto, Ono, Thepkanjana and Uehara (eds.) *Typological Studies on Languages in Thailand and Japan (Hituzi Linguistics in English 19)*, Hituzi Syobo Publishing, 137-157.
- Runggeratigul, K. (2012) "A comparative study of the frequency of the presence and absence of first and second personal reference terms in Thai and Japanese—based on the analysis of original and translated manga—" *Japanese Studies Network Thailand*, Paper presented at JSN-Thailand 5, 151-167.
- Uehara, S. (1998) "Pronoun drop and perspective in Japanese" In Akatsuka, et al. (eds.) *Japanese/Korean Linguistics*, CSLI 7, 275-289.
- Uehara, S. (2006) "Internal state predicates in Japanese: A cognitive approach," In June Luchjenbroers (ed.) *Cognitive Linguistics Investigations across Languages, Fields and Philosophical Boundaries*, Amsterdam/Philadelphia, John Benjamins, 271-291.
- Uehara, S. (2012) "The cognitive theory of subjectivity in a cross-linguistic perspective: Zero 1<sup>st</sup> person pronouns in English, Thai and Japanese" In Miyamoto, Ono, Thepkanjana and Uehara (eds.) *Typological Studies on Languages in Thailand and Japan (Hituzi Linguistics in English 19)* Hituzi Syobo Publishing, 119-136.

## 資料

- 青山剛昌 (1994) 『名探偵コナン』 3 小学館 (「旗本家の一族」、「密室の秘密」)
- 臼井儀人 (1992) 『クレヨンしんちゃん』 1 双葉社 (「ひまわり組クレヨンしんちゃん」 2、「オラと母ちゃんはお友だちなのヨ編 PART 1」 2、3、5、6、7、「幼稚園はパラダイス編」 1、4)

- 尾田栄一郎 (1997) 『ワンピース—冒険の夜明け—』 1 集英社 (「ROMANCE DAWN—冒険の夜明け—」)
- 鳥山明 (2002) 『ドラゴンボール完全版』 1 ジャンプ・コミックス (「ブルマと孫悟空」、「亀仙人の筋斗雲」)
- 藤子・F・不二雄 (1974) 『ドラえもん』 1 てんとう虫 (「○秘スバイ大作戦」、「走れ! ウマタケ」)
- 大和和紀 (1980) 『あさきゆめみし』 1 講談社 (「其一」)
- 和月伸宏 (1994) 『るろうに剣心—完全版—』 1 集英社 (「剣心・緋村拔刀斎」、「流浪人・街へ行く」)
- Aoyama, G. (1994) *Metantei Conan*, 3 (Prot Trans.) Conan Yodnukseubjiew, 1995, Vibulkij.
- Fujiko F Fujio. (1974) *Doraemon*, 1 (Khaopankhun Trans.) 1989, Ned Comics.
- Oda, E. (1997) *One Piece*, 1 (Visut Trans.) 1999, Siam Inter Comics.
- Toriyama, A. (2002) *Dragon Ball Kanzenban*, 1 (Khun Puak Trans.) 2009, Ned Comics.
- Usui, Y. (1992) *Kureyon Shinchan*, 1 (Tangton Trans.) 1992, Ned Comics.
- Watsuki, N. (1994) *Rurouni Kenshin Kanzenban*, 1 (Eakasit Trans.) *Samuraipaneejon*, 2011, Siam Inter Comics.
- Yamato, W. (1980) *Asakiyumemishi*, 1 (Bandit Praditanuwong Trans.) *Duaymeekmookhaengrak*, 1997, Nation Edutainment.